



Experience

映画の根源的な愉悅に耽溺せよ！

Film Personal

パーソナルな視線と感性が生み出す、

『個人映画』が誘う内的宇宙への旅

FESTIVAL IV

シネマ・フェスティバル IV

CINEMA

アンダーグラウンド・

UNDERGROUND

The other Film
organization
【特集】伝説の個人映画作家集団TFO

DIRECTOR IN FOCUS
● スティーブン・ドウスキン ● 乙部聖子
● 岩田信市 ● 達智巳一
【追悼・天野天街】
● 天野天街 ● 長谷川久

SPECIAL PROJECT
【特別企画】
● 岩田雄二（映像）＋林恭平（音楽）
『谷の霊』スペシャル・エディション

上映プログラム

- ① A『20億年の再突入』＋I『大須パラダイス・大須熱帯植物園』（70分）
- ② B『フィルム・シンジケート作品集』（94分）
- ③ D『MAJYOLICA作品集』＋E『清田士郎作品集』＋F『DISTANCE』（90分）
- ④ G『The Silent Cry（沈黙の叫び）』（99分） ※京都上映はありません
- ⑤ H『乙部聖子作品集』（89分）
- ⑥ J『達智巳一作品集』＋M『谷の霊』（90分）
- ⑦ L『長谷川久作品集』＋K『トワイライツ』（85分）
- ★《追悼・天野天街特別上映》『とまとびん』＋『トワイライツ』 ※京都上映のみ

追悼・天野天街特別上映

10/2(火) 20:00～

上映：『トワイライツ』（天野天街監督）＋『とまとびん』（天野天街出演）
トークゲスト：石丸だいこ（『トワイライツ』主演）、山崎のりあき（『トワイライツ』撮影）
※天野天街の監督作と貴重な出演作品の上映&トークゲストによる特別企画。

オンライン予約：UPLINK京都 → <https://kyoto.uplink.co.jp/>（UPLINK京都会員：1,100円）

【会場】UPLINK京都
kyoto.uplink.co.jp

UPLINK 京都

烏丸御池駅 南改札口直結 新風館B1F
075-600-7890

京都連続上映

各回入替制			
10/3 (土)	10/4 (日)	11/14 (土)	11/15 (日)
13:00～	13:00～	13:00～	13:00～
⑤★	⑥★	⑤★	⑥★
16:00～	16:00～	16:00～	16:00～
①	②	③	⑦

★はトークゲスト：
10/3（土）⑤山根明季子（作曲家・アーティスト）
10/4（日）⑥江村耕市（嵯峨美術大学芸術学部教授）
11/14（土）⑤五所純子（作家・文筆家）＋小口容子（映画作家）
11/15（日）⑥林恭平（電子音響音楽家・『谷の霊』音楽）

オンライン予約：映画祭ホームページ → <https://ucf4.sig-new.com/>

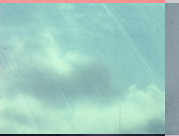
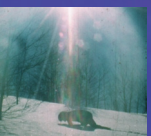
【料金】一般：1,500円、シニア：1,100円、専門・学生：1,000円、ハンディキャップ：1,000円 ※2会場共通

オンライン予約、最新情報は映画祭ホームページで。  <https://ucf4.sig-new.com>

【主催】 有限会社エス・アイ・ジー / Art Saloon/UCF 【共催】 Brand new day
【協力】 UPLINK京都、FRAME in VOX、下高井戸シネマ、愛知県立美術館、福岡市総合図書館、古田一晴、大野敬子、岩田和雄、
岩田智子、清田士郎、谷マリオ、福本健修、藤本和夫、達智巳一、山崎のりあき、林恭平、ハーバード自主映画アーカイブ
【デザイン】 清水肇 (prigraphics) 【背景画像】 岩田和雄

【会場】FRAME in VOX
<https://frame-in-vox.com/>

FRAME in VOX
borderless media space
〒604-8031 京都市中京区大黒町 44 VOX ビル 3F
TEL 075-748-1581 MAIL info@frame-in-vox.com



伝説の個人映画作家集団TFO

名古屋の伝説的劇場《シアター 36》で1971年に結成された個人映画作家集団TFOは、アメリカ西海岸の実験映画に刺激を受けつつ、各人が独自の方法論を模索しオリジナルな作品を生み出した。ブルース・ベイリーや原将人ら国内外の映画作家と交流し、'74年にはアメリカ巡回上映を行うなど、70年代名古屋のアンダーグラウンド文化に重要な役割を果たしたが、80年代以降作品が上映される機会はなく、今回のデジタル化と再上映は貴重な機会となる。フィルムが現存する6人の作家のセレクションを上映する。

伊静亜伊

④『20億年の再突入』

1973/日本/50分/カラー /sound/デジタル (8mm)

ND WP

TFOのオルガナイザー伊静亜伊(1946-2023)の代表作。サイケデリック体験を経た自己探求の旅を4部構成で描く壮大な映像詩。原将人によって「70年代前半のエポックメイキングな作品」と評価された、日本アンダーグラウンド映画の重要作。



フィルム・シンジケート

⑤《フィルム・シンジケート作品集》

6作品/94分 ND WP

岩田和雄と岩田雄二の兄弟によるユニットだが、作品は共同ではなく個別に制作した。岩田和雄は、美術家の感性と日記映画を融合した独自の作風を追求。岩田雄二は、鋭敏な映像感覚で世界を捉え、精神世界へと繋がる幽玄の美的創造を志向した。

『MAN』岩田和雄

1970/日本/4分/カラー /silent/デジタル (8mm)

『超新星』岩田雄二

1972/日本/12分/カラー /sound/デジタル (8mm)

『遠景・近景』岩田和雄

1973/日本/23分/カラー /sound/デジタル (8mm)

『応答』岩田雄二

1973/日本/8分/カラー /sound/デジタル (8mm)

『銀虫』岩田雄二

1976/日本/10分/カラー /sound/デジタル (8mm)

『転寝日記』(未完) 岩田和雄

1974-77/日本/37分/カラー /sound/デジタル (8mm)

⑥《名古屋特別上映作品》

名古屋会場のみの特別上映。“フィルム・シンジケート”の2作品を特別上映

『夏』岩田和雄

1971/日本/10分/カラー /sound/デジタル (8mm) ND WP

『ジュラ紀』岩田雄二

1972/日本/10分/カラー /sound/デジタル (8mm) ND WP



MAJYOLICA

⑦《MAJYOLICA作品集》

(5作品・57分) ND WP

TFO唯一の女性メンバー MAJYOLICAは、ナイーブな視線と美意識で日常を切り取る。自らの感情と感性に忠実な映像表現は、生活の中にある生、死、愛情、憧憬などを繊細に拘り取る。70年代の女性映画作家の表現として発見されるべき作品集。

『THE DAYS OF SILENCE』

1971/日本/18分/B&W/sound/デジタル (8mm)

『MAY WIND OF CHILD』

1971/日本/13分/カラー /silent/デジタル (8mm)

『MY SUNSET FADE』

1971/日本/11分/カラー /sound/デジタル (8mm)

『EPHEMERA』

1974/日本/9分/カラー /silent/デジタル (8mm)

『Angel Chimes』

1981/日本/4分/カラー /silent/デジタル (8mm)

清田士郎

⑧《清田士郎作品集》

(2作品・15分) ND WP

手持ちカメラが凝視する無人の食肉処理場や廃墟のディテールによって構成された2作品。スローモーション映写によって強調されるカメラの動きは、撮影者の繊細な感情と視線を浮かび上げらせ、冷ややかな空気感をも醸し出す。

『PONKIYA』

1975-76/日本/7分/カラー /silent/デジタル (8mm)

『MADO』

1977/日本/8分/カラー /silent/ デジタル (8mm)

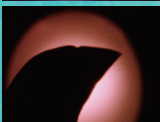
谷マリオ

⑨『DISTANCE』

1978/日本/20分/カラー /sound/2面マルチ/デジタル (8mm)

ND WP

最後のTFOメンバーである谷マリオは映画的な実験に新たな可能性を見出そうとした。本作は2面マルチ上映とライブでの速度調整による、エクスパンデッドな実験映像作品。



追悼・天野天街

天野天街

⑩『トワイライツ』

1994/日本/33分/カラー /sound/デジタル (16mm) ND

劇団少年王者館主宰・劇作家の天野天街が監督した唯一の短編映画。生と死の間(あわい)で、過去・現在・未来を駆け抜ける少年のノスタルジックな幻想旅行。演劇的な仕掛けとサイレント映画の運動性が独自の世界を構築する。愛知芸術文化センター制作。オーバーハウゼン国際短編映画祭グランプリ、メルボルン国際映画祭短編映画グランプリ。



長谷川久

⑪《長谷川久作品集》

2作品・52分

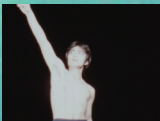
天野天街とともに劇団・少年王者館を旗揚げし、『トワイライツ』に楽曲提供もした自主映画の異端児・長谷川久のデビュー作『にんげんだいすき鉄仮面』を初デジタル化。クッチャー兄弟を思わせる天野天街の出演作「とまとびん」は、1982年フジ8mmコンテストグランプリ受賞。

『にんげんだいすき鉄仮面』

1979/日本/27分/カラー /sound/デジタル (8mm) ND WP

『とまとびん』

1982/日本/25分/カラー /sound/ デジタル (8mm)



DIRECTOR IN FOCUS

“映画に対する純粋な欲望と映画が作家のメタファーとなる非商業的な映画”それを”個人映画”と呼ぶならば、特集する4人の作家の作品は、例え制作資金の援助を受けていようと、純粋な”個人映画”といえるだろう。映画というメディアの持つ自由と残酷さを内包するこれらの映画は、作家のパーソナリティと結びついた強烈な個性で、観客を挑発し翻弄し、新しい世界に連れてゆく。

スティーブン・ドウスキン

⑫『The Silent Cry(沈黙の叫び)』

1977/UK/99分/カラー /sound/デジタル (16mm)/日本語字幕 日本初公開

UKアンダーグラウンドの代表的映画作家スティーブン・ドウスキン。クローズアップやズームを多用したフェティッシュな視線と時制を解体する展開によって一人の女性の内面を描く本作では、個人映画の手法が物語と日記映画の境界を曖昧にする。若き日のコージー・ファニ・トゥワッティ(スロビン・グリッスル、クリス・アンド・コージー)が本人として登場。



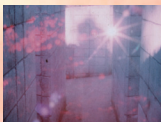
"Courtesy of Stephen Dwoskin and LUX, London

乙部聖子

⑬《乙部聖子作品集》

(11作品・89分) ND WP

70年代初頭から8mmやビデオ作品を多数制作。実験映画、アニメーションなど様々な手法を使い、鋭い映像センスと生々しい身体感覚で自己表現を続けた乙部聖子。映像のみならず、音楽、パフォーマンスなどジャンルを横断する活動と作品に込められたパーソナルなメッセージは、フェミニズムの視点からも再発見されるべき重要性を持つ。



『α』

1971/日本/4分/B&W/silent/デジタル (8mm)

『Return to Forever』

1972/日本/11分/カラー /sound/デジタル (8mm)

『白蓮華』

1974/日本/13分/カラー /sound/デジタル (8mm)

『Improvisation』

1979/日本/9分/カラー /sound/デジタル (8mm)

『TEST』

1983/日本/15分/カラー /sound/デジタル (Video)

『みなそこにて』

1985/日本/5分/カラー /sound/デジタル (8mm)

『昔話か?』

1986/日本/4分/カラー /sound/デジタル (Video)

『胡桃の中の世界』

1988//日本/5分/カラー /sound/デジタル (8mm)

『タラッサ』

1988/日本/10分/カラー /sound/デジタル (8mm)

『星を呑みこんだ話』

1995/日本/6分/カラー /sound/デジタル (Video)

『お逃げお止まり』

1996/日本/7分/カラー /silent/デジタル (Video)

岩田信市

⑭『大須パラダイス・大須熱帯植物園』

1977/日本/20分/カラー /sound/デジタル (8mm)

ゼロ次元の設立メンバーであり、美術、演劇など多岐にわたる活動で名古屋アンダーグラウンドを牽引した岩田信市の監督作。大須実験ギャラリーAMPに組まれたセットで展開される身体性とユーモア溢れるアナーキーな世界。撮影はフィルム・シンジケートの岩田雄二が担当。



達智巳一

⑮《達智巳一作品集》

(5作品・55分) ND WP

8mmの自家現像から、自作のオプチカル・プリンターを駆使した16mm作品まで、膨大な時間と労力でフィルムによる新しい視覚体験を生み出した異才の作品集。コマ単位の操作による強烈なフリッカーや幾重にも積み重なる映像が、観る者を異次元へと誘う。活動期間が短かく上映の機会も少なかったが、独自のアプローチは再評価に値する。



『FACE TO THE FACE』

1976/日本/8分/カラー /sound/デジタル (8mm)

『A DAY after a day after…』

1977/日本/10分/カラー /sound/デジタル (8mm)

『In a summer breeze』

1977/日本/14分/白黒/sound/デジタル (16mm)

『光風』

1977/日本/11分/白黒/sound/デジタル (16mm)

『広瀬忠司の○の主題による変奏』

1978/日本/12分/カラー /sound/デジタル (8mm)

※本プログラムには激しい光の明滅を伴う作品があります。

特別企画

岩田雄二+林恭平

⑯『谷の霊』スペシャル・エディション

(35分) ND WP オリジナル映像・岩田雄二

1982/日本/35分/カラー /silent/デジタル (8mm)

オリジナル音楽・林恭平 2025/日本

TFO以降も映画制作を続けた岩田雄二(1952-2006)の残した映像に気鋭の電子音楽家・林恭平がサウンドトラックを制作。アンダーグラウンドの過去と現在のコラボレーションが、新しい映像体験を生み出す！



⑰《福岡特別上映》追悼・大木裕之

福岡会場のみの特別上映。2025年10月に逝去した大木裕之の2作品を福岡市総合図書館収蔵の16mmフィルムで上映。

『光景獲り』

1991/日本/5分/カラー /silent/16mm

『ターチ・トリップ』

1993/ドイツ・日本/64分

カラー /sound/16mm



パーソナルな視線と感性が生み出す、映画の根源的な愉悅に耽溺せよ！

『個人映画』が誘う内的宇宙への旅

日本において『個人映画』という広く豊かな映画の脈脈はまだまだほとんど発掘されていない。自分のために作られ、限られた観客たちに公開されたあと、永い眠りの中にあった映画たち。映画史や美術史が取りこぼした、声にならない個人の叫びや自己の存在と深く繋がる切実な表現を持つ映画たち…。そこには、生と死の想念、日常の発見、フェミニズムの視点、技術の実験、ライブ・パフォーマンス上映の試みなど、自由で多様な映画と表現の追求があり、過去の検証ではなく未知なるものとしてスクリーンに投影される時、映画の根源に触れる新しい愉悅と可能性の扉が開かれるに違いない。感性を研ぎ澄ませて、この唯一無二の世界に耽溺していただきたい。

※すべてデジタル上映。カッコ内はオリジナル・フォーマット。ニューデジタル版↓ND、ワールド・プレミア↑WP

アンダーグラウンド・シネマ・フェスティバル IV